

**絵本選考会議について**

ブックスタート赤ちゃん絵本20冊は、赤ちゃん絵本に関する知識と経験が豊富な5名の選考委員が、選考基準に基づいて選出しています。現在、NPOブックスタートでは、日本国内で出版されている赤ちゃん絵本を「赤ちゃん絵本ライブラリー」として収集しており、これらの絵本と、各選考委員から推薦された絵本をあわせた、約2600冊の中から選考を行いました。

2007年6月に、2日間にわたって開催された絵本選考会議では、図書館や保育園、絵本専門書店など、実際に赤ちゃん絵本をひとときを楽しんでいる立場、絵本を通して赤ちゃんの発達に関する研究をしている立場、医学的見地から赤ちゃん絵本との関係を見つめる立場、それぞれの視点からの意見が出されました。

そして、赤ちゃんがそばにいることを想像しながら、候補に挙がったすべての絵本をその場で手に取り、実際に声に出して読んでみながら、1冊1冊の魅力を味わうという時間をもちました。



選考会議の様子

その結果、絵や色がきれいな絵本や、ことばの響きを楽しめる絵本、赤ちゃんが大好きなものが登場する絵本や保護者が読んでいてうれしくなるような絵本、長く親しまれている絵本や新しく出版された絵本など、さまざまな視点をもって、20冊が選ばれました。

**選考基準**

- ・赤ちゃんが保護者と豊かな言葉を交わしながら楽しい時間を過ごすことで、心健やかに成長することを応援する絵本。
- ・上記に関し、年月を経て赤ちゃんから支持され続けてきた絵本。
- ・上記に関し、今後、赤ちゃんからその支持を受ける可能性が高い絵本。

**選考委員**

(敬称略・50音順)

佐々木 宏子 (発達心理学・鳴門教育大学名誉教授)  
代田 知子 (司書・埼玉県三芳町立中央図書館副館長)  
横山 眞佐子 (子どもの本の専門店「こどもの広場」主宰)

島村 つぎ子 (保育士・公立保育園元園長)  
細谷 亮太 (小児科医師・聖路加国際病院小児科部長)



**< 2008-2009年度 ブックスタート赤ちゃん絵本20冊 >**

- ・あそび (文化出版局)
- ・いないいないばあ (童心社)
- ・おつきさまこんばんは (福音館書店)
- ・がたん ごとん がたん ごとん (福音館書店)
- ・くだもの (福音館書店)
- ・くつついた (こぐま社)
- ・こんにちは どうぶつたち (福音館書店)
- ・じゃあじゃあ びりびり (偕成社)
- ・しろくまちゃんのほっとけーき (こぐま社)
- ・だから こぶたちゃん (偕成社)
- ・だっこ だっこ ねえ だっこ (ポプラ社)
- ・たべものくことばどんだんあかちゃんえほん (ひかりのくに)
- ・たべもの/おもちゃくブルーナの0歳からの本 (講談社)
- ・どうぶつのおかあさん (福音館書店)
- ・ととけっこう よがあげた (こぐま社)
- ・ばいばい (偕成社)
- ・びよーん (ポプラ社)
- ・ぶー ぶー ぶー (福音館書店)
- ・まて まて まて (こぐま社)
- ・もこもこもこ (文研出版)

**地域で手渡す絵本を決定する際に・・・**

赤ちゃんに手渡す絵本については、選考過程や選ばれた理由を関係者で共有しておくことが大切です。専門知識を活かして図書館員が選ぶ地域もあれば、ボランティアを含む関係者全員が集まり、地域での「選考会議」を開くこともあります。図書館がない地域では、実際に赤ちゃん絵本を読む機会の多い保育士や、経験豊富な読みかせボランティアを中心に絵本を選んでいる場合もあります。ぜひ皆さんで20冊の絵本を実際に手に取り、それぞれの絵本の魅力を楽しみながら、赤ちゃんに手渡すきっかけの一冊を選んでみてください。

**特別支援価格での絵本の提供**

選考会議で選出された絵本は、出版社に利益が発生しない「特別支援価格」で直接NPOブックスタートに提供され、他のアイテムとともにブックスタート・バックとして直接自治体によって購入されています。これは、2000年の「子ども読書年」をきっかけとした日本でのブックスタートの立ち上げ以来、出版業界がブックスタート・バックの提供のしくみからは、直接的な利益を得ないという基本合意に基づいて活動を支援しているからです。

※NPOブックスタートを通さないバックの流通では、この特別支援価格による絵本提供のしくみは適用されませんのでご了承ください。

～ 選考委員から ～ (敬称略・50音順)



佐々木 宏子  
(発達心理学)

ここ数年の間に出版された数多くの赤ちゃん絵本の中から20冊を選定することは、楽しくもありましたが絞りきれなくて苦しくもある作業でした。しかし、私個人の考えでは今回の選定絵本20冊は今までの中でもっとも赤ちゃんに喜んでもらえるものではないかと思うのですが、いかがでしょうか。赤ちゃんと読み手であるお母さんお父さん(保育者など)の心をつなぎ、言葉が生まれる前のやりとり(コミュニケーション)を促す、日本語の音韻・リズム・メロディが豊かな絵本に着目しました。赤ちゃん絵本はそれを媒介にして向き合う者同士がお互いの気持ちを伝え合うことを楽しむためのものであり、「襟を正して読むもの」ではないと思うのです。

絵本を選考するにあたり、私が保育園や児童館で赤ちゃんから学んだことを基本におきました。言葉がリズムカルで楽しい響き、暖色系の明るい色づかい、身近な題材でわかりやすい絵、赤ちゃんはこんな絵本を好みます。読み手であるお父さんやお母さんもこれは楽しい、面白いと感じて、時には穏やかな気持ちになるような絵本が丁寧に選ばれたと思います。赤ちゃん時代のお母さんの語りかけは信頼を築く上でとても大切です。子守唄やわらべ歌に加えて、絵本を仲立ちとした言葉や表情の豊かな触れ合いは、赤ちゃんが最も幸せを感じるひとときとなるでしょう。子どもと絵本を愛する共通した思いの選考会議は、大変充実して勉強になりました。



島村 つぎ子  
(保育士)



代田 知子  
(司書)

絵本を読んでやると、3～4ヶ月の赤ちゃんでも笑ったり、手足をばたばたさせたりして喜びます。そして、それを見て一番驚き、一番嬉しそうに顔をするのが、その子のお母さんやお父さんです。「うちの子に絵本は無理」と思い込んでいる親には、我が子の喜ぶ姿を見てもらうのが一番効果的。だから、「どの子もきっと喜ぶぞ」と自信を持てる絵本を選ばなくてはなりません。ことばの響きや、絵から受ける印象、色、構図、ストーリー展開など、何度も読みきかせをして選びました。「親自身が楽しんで読める本でないと読んでもらえないね」、「初めて読みきかせをする親にも参考になるように読んであげられるといいわね」などの意見も出ました。

要領がわかってきましたので、今回の絵本の選考は、前より一層、楽しむことができました。ちょっと時間をみつけては、銀座の本屋さんをのぞいて、新しい絵本のチェックを続けました。すると、今まで気付かなかったいろんなことが見えてきました。ずっと昔からの絵本でも、やっぱりリストからははずせないものには、それなりの理由があるのです。でも、新しい絵本の中にも、大切に育てなければならぬ良い作品が、いっぱいあります。その両方のバランスが何ととっても難しい。でも、そこが、なんととっても楽しいのです。



細谷 亮太  
(小児科医師)



横山 眞佐子  
(子どもの本の専門店 主宰)

「赤ちゃん絵本」といわれているものがこんなに沢山! 子どもの本屋をしていながら、30年前はこんなに無かったなー! とびっくり。でも、一冊一冊読んでいくと、「赤ちゃんをなめてるぞ!」というものもありました。はじめて出会う音や色、形や動作。その中に命が躍動するような喜びが溢れているものを選びたい、と思いました。読む人と読まれる人、二人の間に「にこにこ、うきうき」が飛び交うように。立場は違うけど、5名の選考委員の目や耳は好奇心いっぱいの幼い人のよう。誰かが読み始めると、思わず拍手がでたり、心がとろけるような時間が過ぎ、20冊の本が選ばれました。捨て難い本の応援演説や、涙をのんでの譲り合い。でも楽しかったなー。